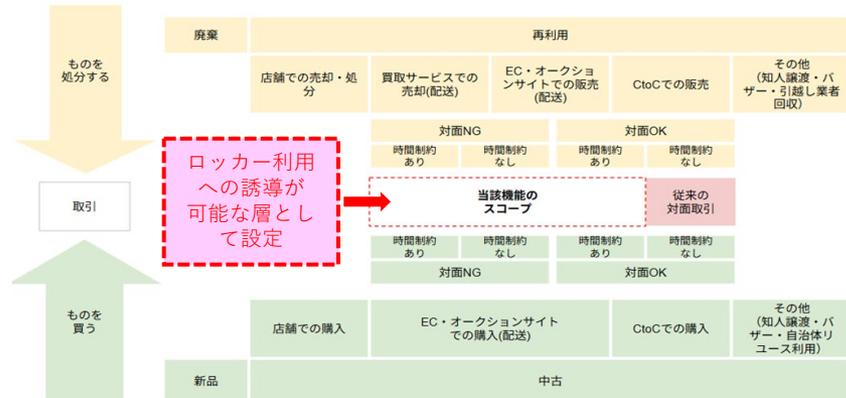


地域での不用品取引サービスにおけるオープン型多機能ロッカーを活用した非対面取引の実証事業 <結果概要> (株式会社ジモティー)

事業の目的

- 「非対面取引」のニーズが高まる不用品取引（CtoC分野）において、**ロッカー利用という「器」を提供することで心理的・時間的制約を解消し、配送を介さない地域内での不用品取引を促進、トラックドライバーの再配達負担軽減を企図**



取組内容

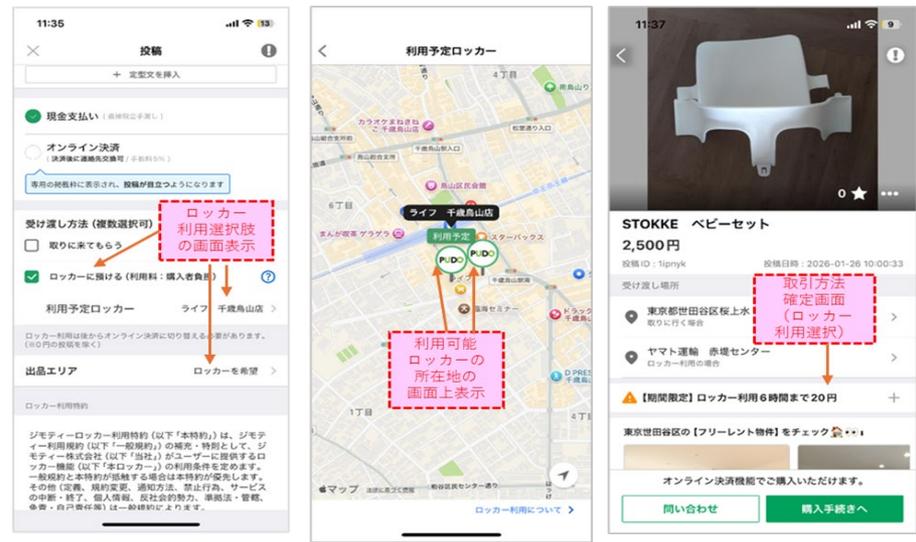
- ・PUDOロッカーを利用した個人間取引における非対面受け渡し**の仕組みを実証するための開発と実証（約3か月）を実施**
 - ⇒手軽に不用品処分ができるUX設計の改修・構築
 - ⇒ジモティーアプリ及びWebサイト内からロッカーへの預け入れ・取り出し・利用状況確認が完結する連携システム開発
 - ⇒対象エリアにおけるバナー設置、ユーザーへのメール・Pushを用いた告知活動の実施 等

実施体制

- ・株式会社ジモティー：プロジェクト全体の企画・運営、システム開発、ユーザー告知、実績分析、運営管理、検証
- ・Packcity Japan 株式会社：PUDOロッカーの提供、技術的連携および運用支援、利用状況データの提供
- ・GMO ペイメントゲートウェイ株式会社：ロッカー利用料のオンライン決済システムの提供

事業の成果

- ・東京都内特定エリアを対象としたアプリ内でのロッカー利用選択の実装を完了し、サービスリリース



事業の効果 (KPI)

- ・当初のロッカー利用成約目標数に対して、提供期間の制約等により実績値は大きく下回る結果に。一方、**ロッカー利用可能な投稿数、成約数は一定確保、提供者側・受領者側の潜在的なニーズを確認**
- ・取引完了者アンケートでは、**ロッカーの選択肢がなかった場合の代替として「宅配便・郵便を選択していた」とする割合は約16.7%であり、ロッカー利用へのシフト可能性を認識**

成果の活用可能性と課題、今後の展望

- ・ユーザーへのアンケートでは、「ロッカー選択可能等の画面情報の認知不足」の傾向がある反面、「**料金低廉など有効性が確認できればロッカー利用意向あり**」との回答が多数。今後「CtoC分野」において、**近隣圏内（1km等）でのロッカー利用可能範囲が拡大すれば、宅配便利用数削減及び再配達削減上の効果が見込めると展望**